

30 「靖国神社」を歩こう

○開催目的

TVや新聞のニュースに頻繁に登場する「靖国神社」ですが、意外に知られていないことが多いようです。このフィールドワークでは、靖国神社・遊就館やその周辺に赴き、靖国神社の昔と今について、自らの足でたどります。都心とは思えないほど静かで豊かな自然を残す場所で、過去と現在、そして、未来について考えましょう。

○開催日時

2月14日（日）10:00～15:00

○参加者数・出演者・団体

参加者数：17名（参加者13名、出演者1名、スタッフ3名）

出演者：宮沢 すばるさん（近現代史研究者）

○プログラム内容・成果と課題

1 プログラム内容

- 10:00 オリエンテーション（セントラルプラザ）
- 10:30 地下鉄で移動
- 11:00 靖国神社見学
- 11:30 昼食（海軍カレーなど）
- 12:00 遊就館見学
- 14:00 靖国神社見学
- 15:00 解散



2 成果と課題

- ・そもそも靖国神社とは？

靖国神社の前身である、東京招魂社ができたのは、1869（明治2）年6月29日。当初は京都に造られるはずでしたが、東京が首都になるのに伴い、東京で適地が探されました。これを積極的に行ったのが、長州藩出身の大村益次郎です。2009年は創立140

周年にあたり、施設の修繕等が行われ、2019年の150周年にむけて計画が立てられ、募金等の動きが始まっています。

第一鳥居の手前に「靖国神社」の社号標が立っていますが、戦前は「別格官幣」という文字が刻まれていました。これは、天皇制と密接に結びつく社格制度での格付けを表すものですが、戦後、宗教法人になり、靖国神社の判断で切断されています。

靖国神社に祀られているのは国家の命令を受けて戦死した人です。他の神社では、祀られている人が増えるということはありませんが、靖国神社に祀られているのは、一人ではありません。合祀の前に、御羽車に載せた霊爾簿に魂をおろし（招魂式）、招魂斎庭からぐるりと回って本殿へ運び、合祀します。一度合祀すると分祠は不可能だそうです。招魂斎庭は現在、時間貸しの駐車場になっています。

・遊就館と展示

1882（明治15）年2月25日に軍事博物館として開館。開館時の展示品は1111点、諸家出品41点。西南戦争の義援金の余りで造られました。展示は主に戦利品で構成されていました。1908（明治41）年9月落成の増改築を経て、1923（大正12）年の関東大震災で崩壊。その後、仮館で展示を続けましたが、1931（昭和6）年10月に現在の建物が落成しました。敗戦・占領を期に公開を取りやめ靖国神社宝物館となっていました。その後、大燈籠の献納者でもある富国生命が1946（昭和21）年より借り、事務所としていました。そして、外されていた「遊就館」の額が戻され、また改築工事を経て、1986（昭和61）年再度開館しました。2002（平成14）年には新館の増築と改修工事が行われ、展示も変わり、現在の展示、建物になっています。

「遊就館」の名は、中国の『荀子』にある、「高潔な人物に就いて交わり学ぶ」という一節から、「遊」と「就」を採ったそうです。その展示は、天皇を神とする皇国史観、東京裁判は勝者による一方的な裁き、という考え方に基づいています。日本が行った戦争を、自存自衛、アジア諸民族を解放するためのものとしているのです。日本が行った植民地支配や、犠牲者についての言及はありません。遊就館は、軍事博物館ではなく、軍事PR施設である、と言えるでしょう。

国家のために戦死した「英霊」を顕彰する施設が遊就館ですが、再び「英霊」が生まることのないよう、私たちは務めなければならないと感じました。

○参加者の声

・フィールドワークはセッティングが大変だと思いますが、大変良い経験を得ることができましたため、継続いただけるとありがたいです。

○担当者・記録

《担当》	鹿住 貴之（認定NPO法人JUON(樹恩)NETWORK）
	中川 径治（NEC ネットエスアイ株式会社）
《運営サポート》	芦澤 弘子（聖学院大学ボランティア活動支援センター）
	松下 知子（東京ボランティア・市民活動センター）
《記録》	鹿住 貴之（認定NPO法人JUON(樹恩)NETWORK）